

伊豆地域の道路整備に向けた対応方針

2. 伊豆地域の道路整備に向けた実施方針(案)

伊豆地域の道路ネットワークを構築するには、背骨となる伊豆縦貫自動車道の早期完成と肋骨道路の整備推進が重要である。

道路ネットワークの課題

道路整備の遅れ

自然災害に対する脆弱さ

大規模災害に対する備えの不足

各所で発生する慢性的な渋滞

高次医療施設への低いアクセス性

時間距離による地域産業の優位性の低下

道路財源の課題

道路予算の縮小

道路整備・管理に要する費用の増大

伊豆地域有料道路の抱える問題

道路ネットワーク整備 の将来像

伊豆地域を
強固に支える背骨と
地域内の移動を円滑にする
肋骨道路の整備

伊豆地域から
広く県外へつながる
高規格な
道路ネットワーク

将来像実現に向けた 実施方針

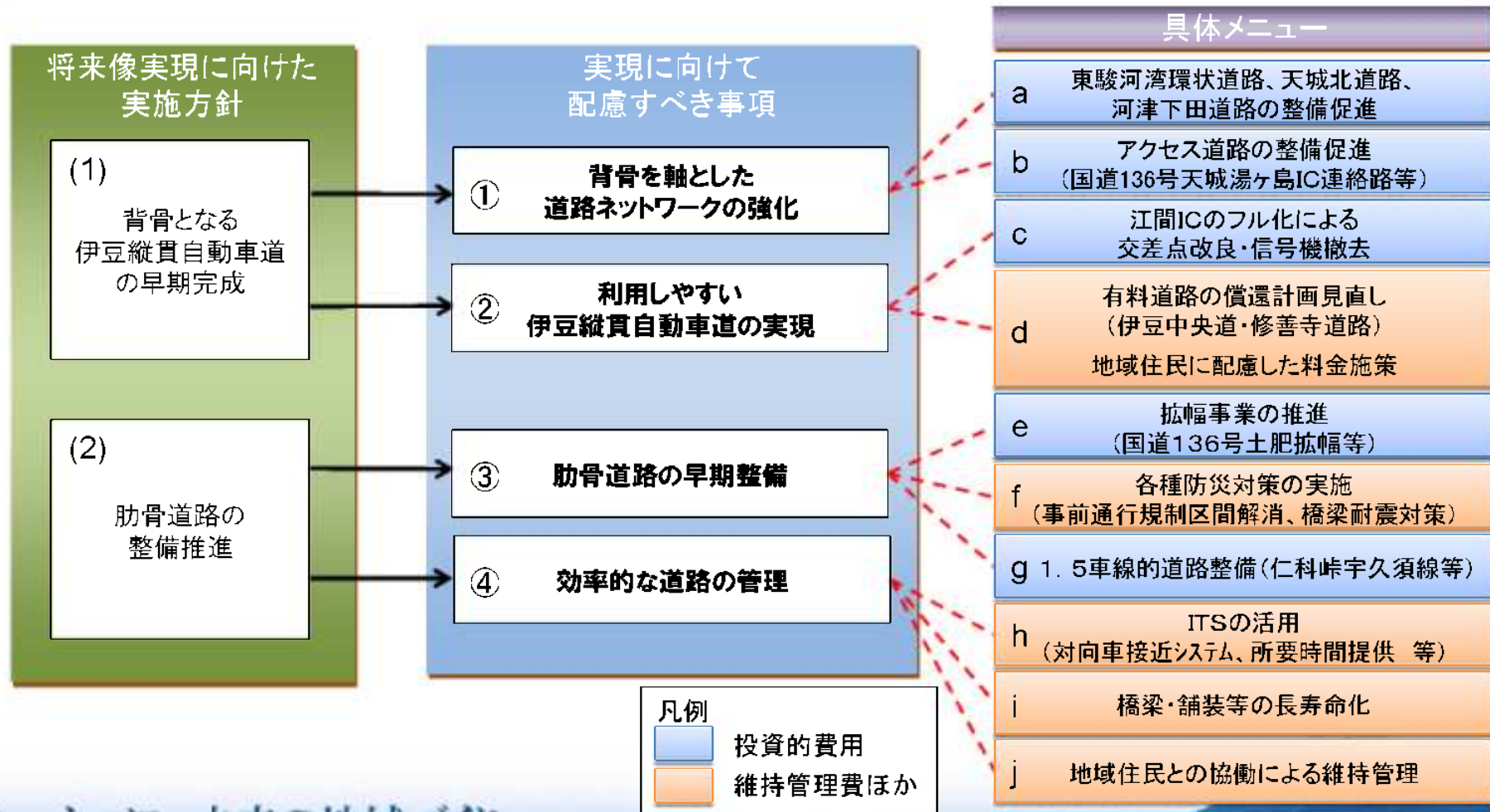
背骨となる
伊豆縦貫自動車道
の早期完成

肋骨道路の
整備推進

2. 伊豆地域の道路整備に向けた実施方針(案)

～将来像実現に向けた実施方針と実現に向けて配慮すべき事項の整理～

『背骨となる伊豆縦貫自動車道の早期完成』に向けては、「背骨を軸としたネットワークの強化」、「利用しやすい伊豆縦貫自動車道の実現」を、『肋骨道路の整備推進』に向けては、「肋骨道路の早期整備」、「コスト縮減」が実現に向けて配慮すべき事項である。
 配慮すべき事項に対応した、ハード・ソフトの具体メニューを組合せ実施する必要がある。



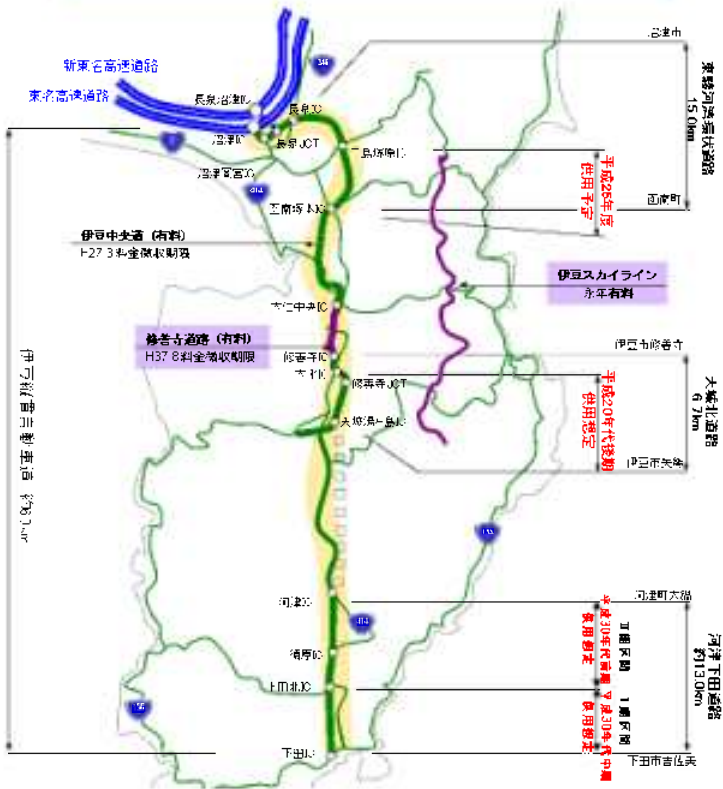
(1) 背骨となる伊豆縦貫自動車道の早期完成に向けて

① 背骨を軸としたネットワークの強化 (a 東駿河湾環状道路、天城北道路、河津下田道路の整備促進)



平成25年度に東駿河湾環状道路が供用し、平成30年代半ばには、国が整備を進める天城北道路や河津下田道路の完成も見込まれ、これにより伊豆縦貫自動車道が概成する。これらの道路整備が着実に進み、計画どおりに完成供用を迎えるよう、必要な道路予算を確保する必要がある。

10年後の姿



天城北道路

供用区間

修善寺IC～大平IC
1.6km
(平成20年4月11日供用)

事業区間

大平IC～(仮称)天城湯ヶ島IC
5.1km



河津下田道路

事業区間

- ◆ I 期区間
 - ・都市計画決定に向け、環境影響評価の手續きを実施中
- ◆ II 期区間
 - ・平成24年度新規事業化



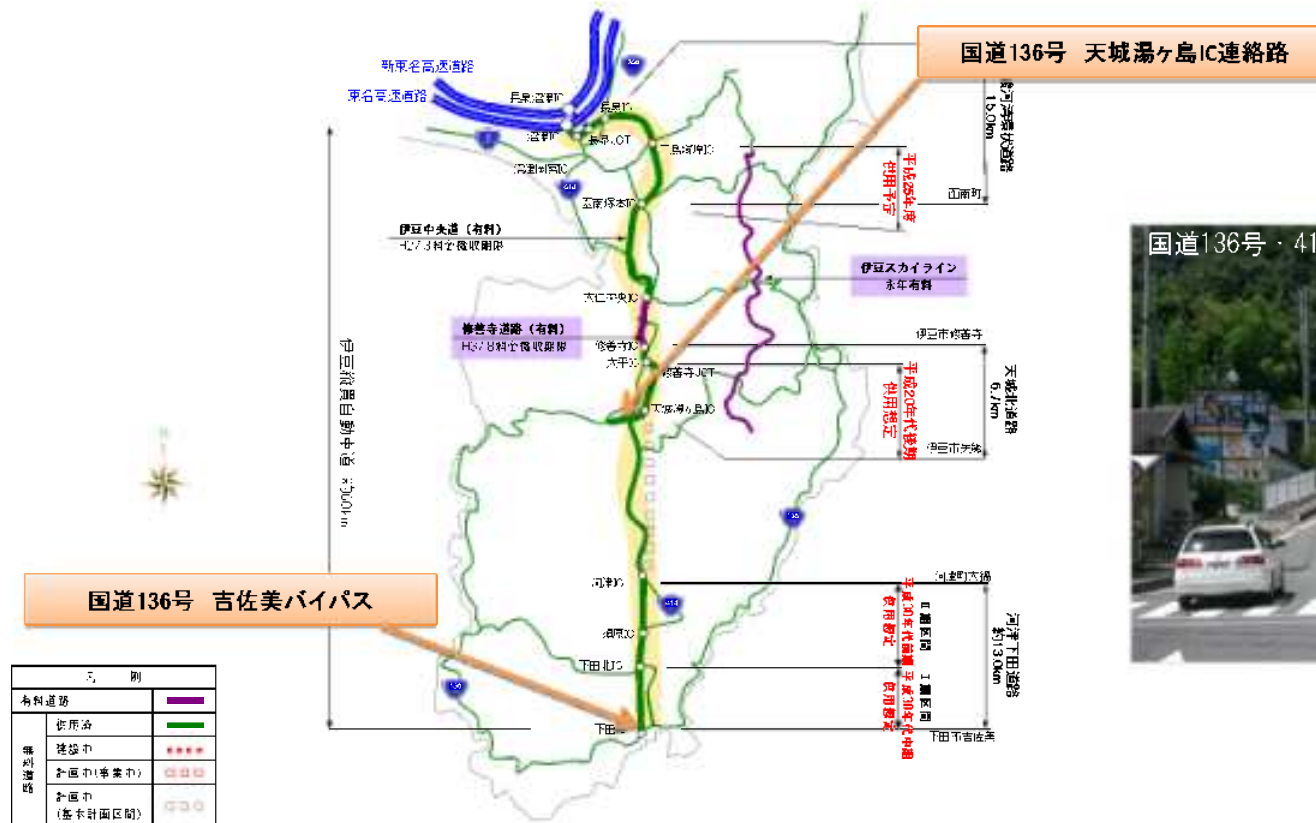
いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

(1) 背骨となる伊豆縦貫自動車道の早期完成に向けて

① 背骨を軸としたネットワークの強化 (b アクセス道路の整備促進)



伊豆縦貫自動車の効果を十分に発現させるため、一般道からのアクセス性を高めることが必要である。特に、平日休日問わず渋滞が頻発する出口交差点では、伊豆半島西部から伊豆縦貫自動車道に円滑にアクセスできるよう、アクセス道路を整備することが重要である。



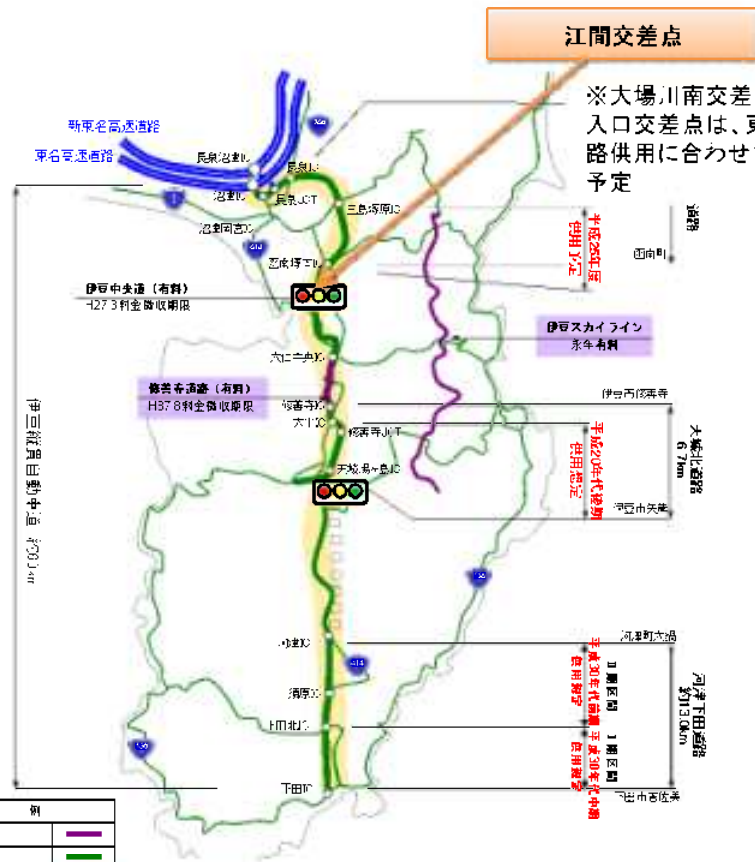
国道136号・414号 出口交差点

(1) 背骨となる伊豆縦貫自動車道の早期完成に向けて

② 利用しやすい伊豆縦貫自動車道の実現 (c 江間ICのフル化による交差点改良・信号機撤去)



平成30年代半ばの伊豆縦貫自動車道の概成時には、東名から伊豆市(天城北道路)の間で唯一江間交差点が存在し、円滑な交通を阻害するだけでなく、交通事故の発生要因となることも想定される。伊豆縦貫自動車道の概成によって交通量の増加も想定されることから、フルインター化や信号機の撤去も重要である。



※大場川南交差点、伊豆中央道入口交差点は、東駿河湾環状道路供用に合わせて信号機を撤去予定



伊豆中央道 江間交差点

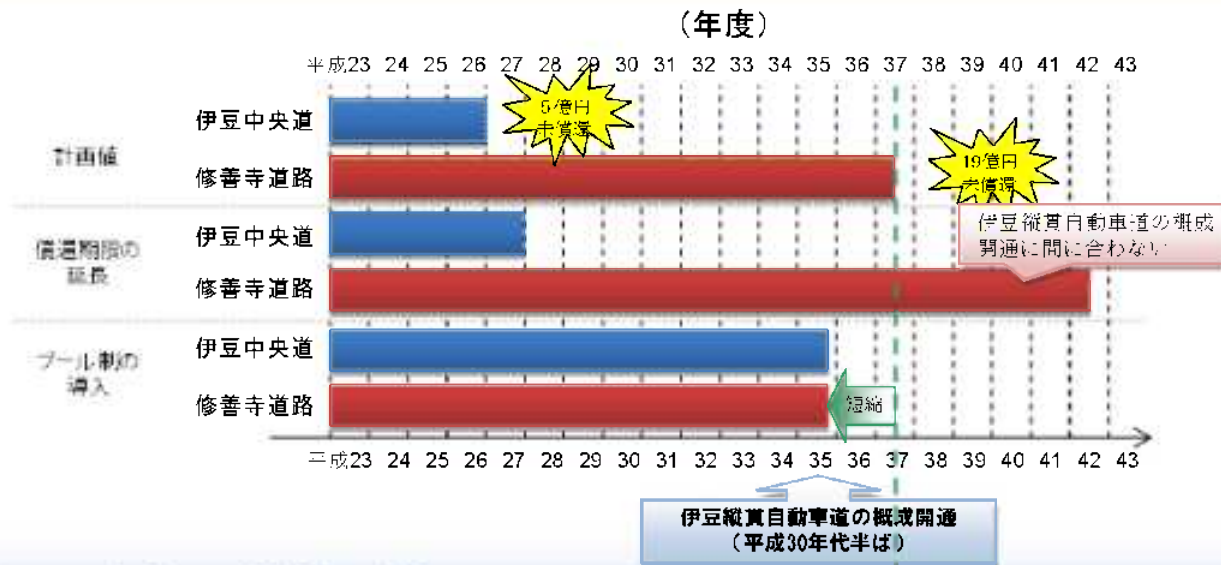
(1) 背骨となる伊豆縦貫自動車道の早期完成に向けて

② 利用しやすい伊豆縦貫自動車道の実現 (d 有料道路の償還計画見直し)



平成30年代半ばの伊豆縦貫自動車道の概成時に高規格な道路ネットワークを利用しやすくするために、有料区間のないストレスフリーの道路とすることも重要である。
 修善寺道路は計画通りに償還が進んでいないため、料金徴収期限で多額の未償還額が残ると予想される。

償還計画の見直し		メリット	デメリット
計画に基づく 無料開放	税金投入 (見直し無)	・ 計画どおりの無料化	・ 未償還額返済のため、公社または県から財源の投入が必要 (税金投入) ・ 道路整備の遅延 ・ 伊豆縦貫自動車道概成時に有料区間が残る
	料金値上げ	・ 計画どおりの無料化	・ 利用者の負担額の増加 ・ 利用者数の減、周辺混雑の拡大
償還期限の延長		・ 確実な償還が可能	・ 償還時期の遅れ ・ 伊豆縦貫自動車道概成時に有料区間が残る
プール制の導入		・ 確実な償還が可能 ・ 修善寺道路の早期無料化	・ 伊豆中央道の償還時期の遅れ



(1) 背骨となる伊豆縦貫自動車道の早期完成に向けて

② 利用しやすい伊豆縦貫自動車道の実現 (d 地域住民に配慮した料金施策)

伊豆中央道・
修善寺道路
社会実験

伊豆中央道・修善寺道路の利用促進を目的として、平成23年度は「定期券制度導入の社会実験」を実施しており、平成24年度は「回数券割引率拡大の社会実験」を実施している。

	平成23年度	平成24年度
方式	定期券制度導入	回数券割引率拡大
実施期間	平成23年6月 ～平成24年3月	平成24年6月 ～平成24年11月
対象車種	軽自動車等、普通車	軽自動車等、普通車、 中型車
有効期間	1ヶ月	実施期間終了まで
割引率	通常料金の5割引相当 (毎日往復利用した場合)	通常料金の5割引



(2) 肋骨道路の整備推進に向けて

① 肋骨道路の早期整備(e 拡幅事業の推進)

拡幅等による
道路改良

肋骨道路においても、幹線道路となる国道136号等を中心に必要な道路拡幅事業を推進する。



いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

(2) 肋骨道路の整備推進に向けて

① 肋骨道路の早期整備(各種防災対策の実施)

防災対策

肋骨道路の中で多く存在している事前通行規制区間の解消を目指し、防災対策事業を進める。
また、緊急輸送路上の橋梁の耐震対策を進める。



国道135号(伊東市宇佐美)



整備事例

国道414号 猿橋(伊豆市湯ヶ島)



(2) 肋骨道路の整備推進に向けて

① 肋骨道路の早期整備 (g 1.5車線の整備の活用による整備費用の縮減・整備効果の早期発現)

地域条件に応じた
柔軟な道路整備

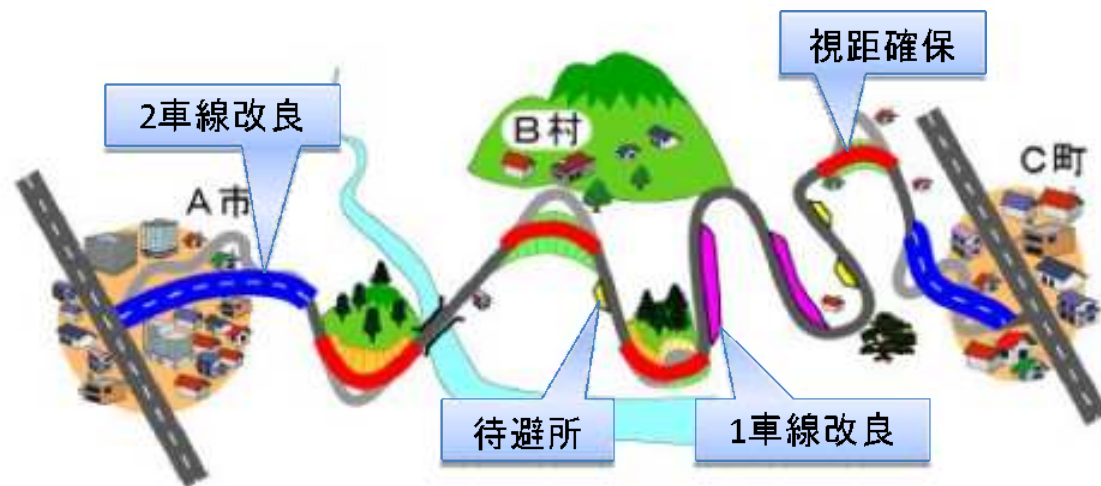
山間部では、地域条件に応じて1.5車線の整備も活用しながら地域の道路整備を推進している。



【整備事例】県道仁科峠宇久須線

【1.5車線の整備とは】

全線を2車線で整備するのではなく、1車線や待避所設置等を組み合わせたことで、コストダウンと整備効果の早期発現等を可能にする手法



(2) 肋骨道路の整備推進に向けて

② 効率的な道路の管理(h ITSの活用による道路利用の平準化・必要な投資額の軽減)

ITSによる道路
交通の安全性向上

道路幅員が狭く、カーブが連続する中山間地域の未改良道路において、ITSによって、対向車の有無をドライバーに知らせることで、安全かつスムーズな走行を支援していく。

概念図



島田市市内において実証実験(H23)



県道藤枝天竜線(島田市川根町笹間)

※出典: 高知工科大学資料

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

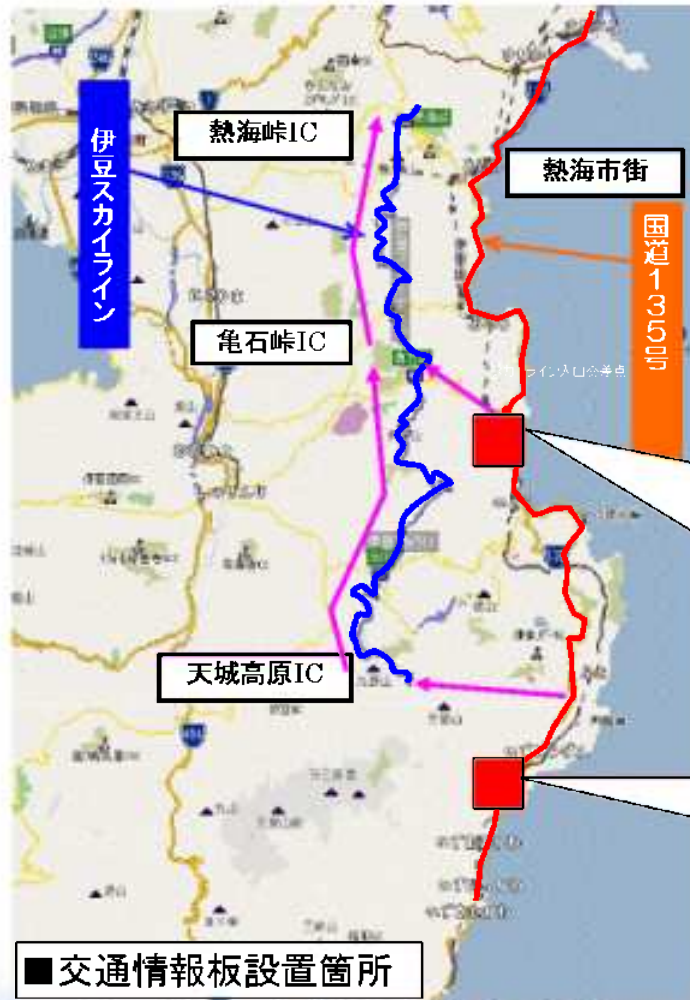
(2) 肋骨道路の整備推進に向けて

② 効率的な道路の管理(h ITSの活用による道路利用の平準化・必要な投資額の軽減)

ITSによる道路
交通の安全性向上

道路情報板を活用し、国道135号の渋滞対策として伊豆スカイラインへの交通転換を図る取り組みを実施。

■ 国道135号における渋滞情報の提供



- 国道135号の渋滞対策として伊豆スカイラインへ交通を転換させるために、国道135号下り線(東京方面)上に交通情報板を設置し、国道135号と伊豆スカイラインの所要時間を表示する。
- 交通情報板は、平成22年4月26日、運用開始した。



いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engin

(2) 肋骨道路の整備推進に向けて

② 効率的な道路の管理(i アセットマネジメントによる維持管理費の縮減)

橋梁のアセットマネジメントによる維持管理費縮減

アセットマネジメントの導入により、橋梁を長寿命化し、今後50年間に約1,060億円の維持管理費用を縮減。

橋梁の管理手法

管理手法	維持修繕方法	グループ	橋梁の特徴	橋梁数
予防保全型	・重要な橋梁に対して、損傷が軽微なうちに損傷の進行を防止するために、予防的に対策を実施 ・管理限界：主部対の健全度III※を60とする	A	・重交通路線への影響が大きい橋梁（跨道橋・跨線橋等） ・緊急輸送路上の橋梁 ・橋長100m以上の長大橋	517
事後保全型	・損傷が進行し顕在化した後に、損傷状況に対応した比較的大規模な対策を実施 ・管理限界：主部対の健全度III※を40とする	A'	・重交通路線への影響が大きい橋梁（跨道橋・跨線橋等） ・緊急輸送路上の橋梁	156
		B	A、A'以外の橋梁	370
		C	A、A'以外の橋梁	1,057
維持型	・定期的な点検、および部分的に軽微な補修を継続し、損傷が深刻化した時点で、部対の取替えまたは架替えを実施	D	ボックスカルバート	420
計				3,170

※健全度HI: 橋梁に全く損傷がなく健全な状態を100とし橋梁の健全性を示すために損傷状況に応じて100から減点した評価値
※平成20年4月1日現在

長寿命化緊急対策事業(H22~H28)

- ・予防保全型の管理へ移行するため、7年間で緊急対策を実施。
- ・“予防保全型”で管理する橋梁のうち、現在、管理限界の健全度HI=60を現時点で下回っている橋梁(107橋)を優先的に修繕。

アセットマネジメントの導入による将来の維持管理費予測



いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

(2) 肋骨道路の整備推進に向けて

② 効率的な道路の管理(i アセットマネジメントによる維持管理費の縮減)

舗装のアセットマネジメントによる維持管理費縮減

アセットマネジメントの導入により、舗装を長寿命化(19年→50年)し、今後50年間に約1,160億円の維持管理費用を縮減。

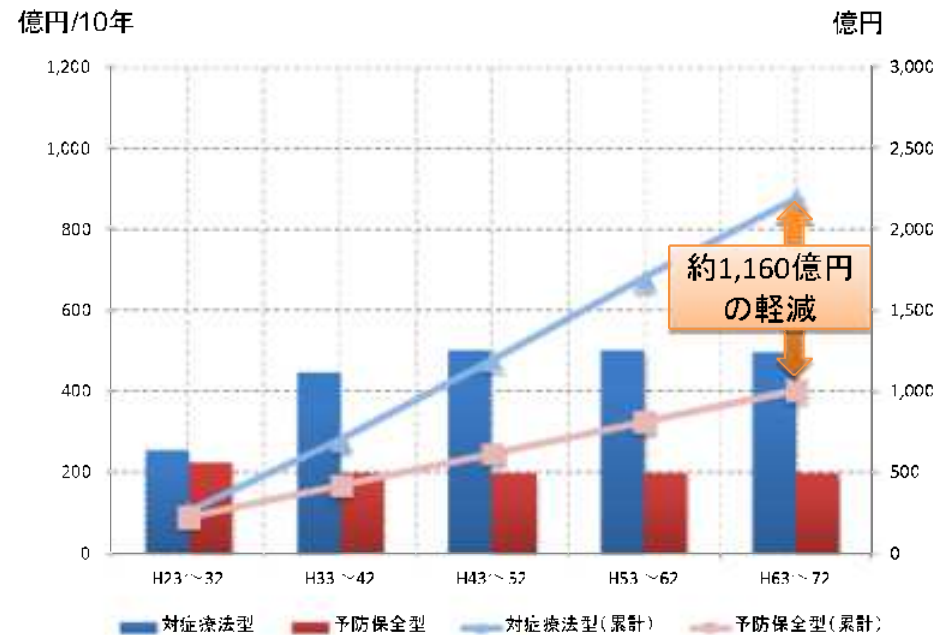
舗装の管理手法

管理手法	管理方法	交通量区分	道路管理		
			新区分	人型車交通量 (台/三・方向)	延長 (km)
事後保全型	劣化が進んだ時に補修	L	N1-N3	0-100	791
		A	N4	100-250	509
		B1	N5	250-600	740
予防保全型	適切な時期に適切な維持修繕の実施	B2	N5	600-1,000	292
		C1	N6	1,000-2,000	239
		C2	N6	2,000-3,000	72
		D	N7	3,000-	18
		計			2,661

長寿命化緊急対策事業(H22~H28)

- ・予防保全型の管理へ移行するため、7年間で緊急対策を実施。
- ・“予防保全型”で管理する箇所のうち、H28までにMCIが2.0未満になると予測される箇所(378km)を優先的に補修。

アセットマネジメントの導入による将来の維持管理費予測



(2) 肋骨道路の整備推進に向けて

② 効率的な道路の管理(j 地域住民と協働による維持管理費の縮減)

官民連携による維持管理

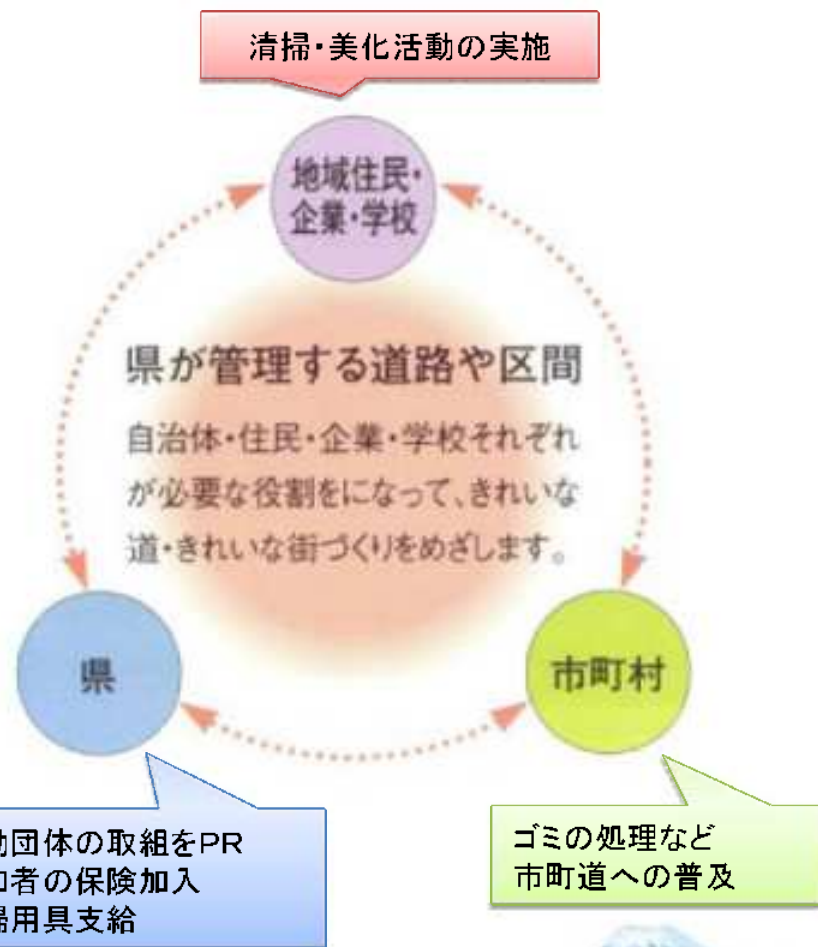
しずおかアダプト・ロード・プログラムによって、地域住民や企業・学校が道路の清掃活動を担当し、道路の維持管理費の縮減に努めている。

概要

住民、団体等の方々に、道路のある一定区間の清掃・美化をおまかせしてその活動を支援することで、地域の方との協働により“まち”の美化を進めていく。

実績

平成13年度から展開しており、平成24年1月31日現在で、120団体、参加者約7,800名、対象道路延長約89kmと着実に活動の輪が広がっている。



(2) 肋骨道路の整備推進に向けて

② 効率的な道路の管理(j 地域住民と協働による維持管理費の縮減)

官民連携による維持管理

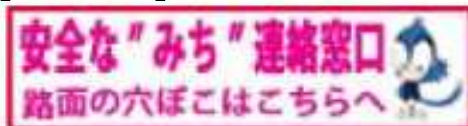
道路の維持管理に関する要望の受付窓口を広報し、道路管理の効率化に努めている。

概要

- ・県及び市町の道路管理者の連絡先をこれまで以上に県民に周知
- ・相互の連携を深め迅速な情報収集に向けた取組の実施

- ・道路利用者が安心して通行できる道路空間の確保
- ・路面の陥没など不具合な箇所への早期対応は、安全面のみならず経済的にも有利

【HPバナー】



ふじのくに
静岡県公式ホームページ

道路保全課

安全な“みち”連絡窓口

路面の穴ぼこや陥没など、通行の支障となる箇所にお気づきの場合は、お気軽に連絡ください。

国道 県道

路面の陥没や穴ぼこは、早期に検知することで道路の安全な管理運営の確保につながるります。お気づきの場合は、最新の土木情報システムを通じてご連絡をお願いします。

路面の陥没や穴ぼこについてはこちらをご覧ください！

「早期発見・早期対応」が、安全確保と道路整備につながります！

各土木事務所連絡先

下田市(市道)・沼津市(市道)・清水市(市道) 熱海市(市道)・伊豆市(市道)	下田市土木事務所 TEL: 055-24-2117 FAX: 055-24-2182 E-mail: shimoji_kanagup@shizuoka.jp
静岡市(市道) 沼津市(市道)・裾野市(市道)・清水市(市道)	静岡市土木事務所 TEL: 053-42-0179 FAX: 053-42-0122 E-mail: shizuoka-shimuro@shizuoka.jp
浜松市(市道)・島田市(市道)・焼津市(市道)・新原市(市道) 伊豆市(市道)・伊豆の国市(市道)・清水市(市道) 熱海市(市道)	沼津土木事務所 TEL: 055-650-2122 FAX: 055-650-2181 E-mail: numazu@numef.shizuoka.jp